

DSOUND



A Whole New World with Plug-Ins on the stage!

GT-Player

インストール・ガイド

FERNANDES

株式会社フェルナンデス輸入機器事業部
東京 〒161-0033 東京都新宿区下落合 2-14-26
大阪 〒531-0071 大阪市北区中津 6-9-9

TEL:03-3950-8013
TEL:06-6458-2245

イントロダクション

この度は DSound GT Player を選択していただき、誠にありがとうございます。このマニュアルでは、GT Player の概略と、インストールの手順、そして GT Player をお楽しみ頂くまでの基本的な設定を解説致します。GT Player の詳細、およびエフェクト・モジュールの解説は、オンライン・ヘルプあるいは製品に付属するマニュアルを参照ください。

GT Player とは？

DSound GT Player は、DSound のエフェクト・モジュールや一部の VST プラグイン・エフェクト、VST インストルメントをリアルタイムに演奏させるためのプレイヤー・アプリケーションです。GT Player には標準で DSound の VST プラグイン・エフェクトが 13 付属しており、それらを組み合わせてギター等の楽器を演奏したり、MIDI 機器を使って音色チェンジを行うことができます。さらにオーディオ・ファイル・プレイヤーを利用すれば、お好みのオーディオ・ファイルを再生しながらの演奏を楽しむことができます。高速なオーディオ・インターフェイスと MIDI 機器を利用すれば、あなたのノート PC やデスクトップ PC が、マルチエフェクト・プロセッサへ変身します。

コンピュータの必須スペック

GT Player を利用するには最低でも以下の環境が必要となります。

Windows : OS Windows2000 / XP / 98SE / ME、CPU 1GHz 以上、ハードディスク空き容量 10MB 以上、高速なサウンドボードあるいは高速なオーディオ・インターフェイス、モニター用アンプあるいはヘッドフォン

Macintosh : OS X 10.2、CPU 450MHz 以上 (MIDI でのプログラムチェンジを行う場合は 900MHz 以上が必要)、ハードディスク空き容量 10MB 以上、高速なサウンドボードあるいは高速なオーディオ・インターフェイス、モニター用アンプあるいはヘッドフォン

コンピュータに標準装備のサウンド・ボードでも GT Player をお楽しみいただけますが、レイテンシーの発生によりリアルタイムの演奏が困難になります。できる限り高速なサウンド・ボードやオーディオ・インターフェイスをご利用ください。弊社のホームページでは推奨の環境が紹介されておりますので、オーディオ・インターフェイスをお買い求めの際には参考にしてください。

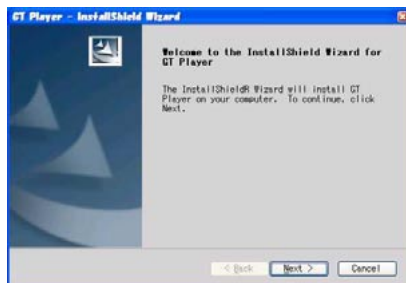
コンピュータの性能は、プログラムチェンジ時のタイムラグに影響します。より高速な CPU であれば快適な音色変更が行えますが、低速な CPU の場合にはプログラムチェンジが完了するまでに無音（あるいは生音）状態が発生します。特にライブなどで MIDI プログラムチェンジの利用を行う場合には、高速な CPU が必要になります。

GT Player のインストール手順

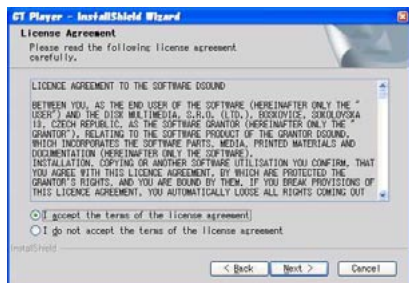
サウンド・ボード、オーディオ・インターフェイス、MIDI 機器を利用する場合には、それらの機器のマニュアルに従い必要なソフトウェアやドライバーをインストールし、各機器の動作チェックをあらかじめ行ってください。

Windows へのインストール手順

CD-ROM（あるいはダウンロードしたファイルを解凍後）から、「GT Player Setup.exe」を実行します。右の画面が表示されたら「Next」をクリックします。

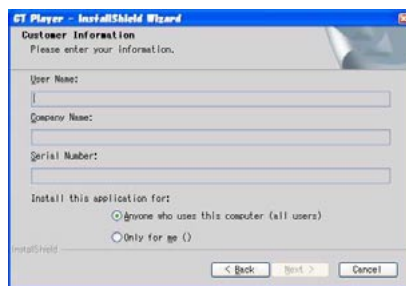


左の画面が出たら「I accept the terms of the license agreement（許可条件協定に同意します）」のボタンをクリックし、「Next」をクリックします。



右の画面が出たら「User Name」フィールドへお名前、「Company Name」フィールドへ会社名や学校名など（空欄可）、「Serial Number」フィールドへユーザー登録カードに記載されているシリアルナンバーあるいはメールにて通知されているシリアルナンバーを入力します。「Install this application for:」の選択では「Anyone who uses this computer（全ユーザーで利用）」あるいは「Only for me（現在のユーザーのみが利用）」のいずれかをクリックします。入力が完了したら「Next」をクリックします。

デモバージョンではこの画面は表示されません。

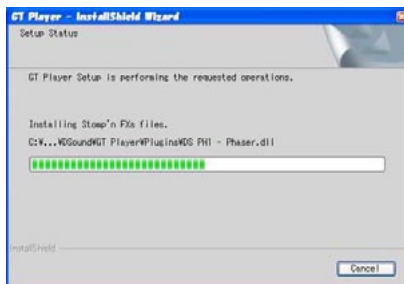
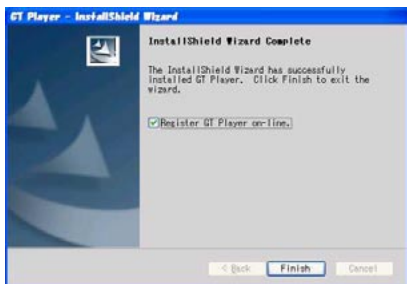


右の画面が出たら、「Complete（完全インストール）」もしくは「Custom（カスタム・インストール）」のいずれかを選択します。通常は「Complete」を選択してください。



左の画面が出たら「Install」をクリックします。もしもインストールを中止したいのであれば「Cancel」をクリックします。

インストール中は右のバーグラフが表示されます。



左の画面が表示されたらインストールは完了です。インターネットに接続して「Finish」をクリックしてください。Web ブラウザーが起動し、ユーザー登録のための Web ページにアクセスします。インターネットに接続できない場合には、後にユーザー登録することも可能です。

Macintosh へのインストール

Macintosh 版は OS X 10.2.x 専用バージョンとなっております。左記以外の OS での正常動作は保証しておりませんので、ご注意ください。

CD-ROM (あるいはダウンロードしたファイルを解凍後) から「GTPlayer.dmg」をダブルクリックします。

右の画面が出たら「Agree」をクリックします。



左の画面が出たら、右側の GTPlayer アイコンを (アプリケーション・フォルダ等の) 任意のフォルダへドラッグ・コピーします。コピーが完了したらデスクトップの「GTPlayer」ディスク・イメージをアンマウントします。

先程コピーした GTPlayer をダブルクリックすると、GTPlayer が起動します。

右の画面が出たら「Insert the Installation CD and enter Serial Number:」フィールドへ、ユーザー登録カードに記載されているシリアルナンバーあるいはメールにて通知されているシリアルナンバーを入力し、「Close」をクリックします。

デモバージョンではこの画面は表示されません。



オンライン・ユーザー登録

Windows ではインストール直後に自動的にオンライン・ユーザー登録（英語）へジャンプします。もしも最初の起動時にスキップした場合、あるいは Macintosh バージョンの方は、http://www.dsound1.com/support/index_en.htm から Registration forms: GT Player をクリックし以下のページを表示させてください。入力項目は以下です。

Serial Number: シリアルナンバーを入力

Name: 半角英字で氏名を入力

Company: 会社名や学校名など

Address: 住所の詳細を入力

例: 2-14-26 Shimo-Ochiai

City: 区市町村を入力

例: Shinjuku-ku

State/Zip: 都道府県と郵便番号を入力

例: Tokyo

Country: ポップアップメニューから Japan を選択

Phone: 電話番号を入力

Email: メールアドレスを入力

Dealer: FERNANDES と入力

What platform you use?: Windows、MacOS のいずれか（あるいは両方）をチェックします。

項目の入力が完了したら「Submit」をクリックします。

GT Player のアンインストール

Windows :

コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」を実行してください。

Macintosh :

以下のディレクトリのファイルを削除してください

- アプリケーション・フォルダ（あるいはドラッグ・コピーしたフォルダ）> GTPlayer
- 起動ディスク>ユーザー>（現在のユーザ）>ライブラリ
> Preferences > com.dsound1.RTPlayer フォルダ

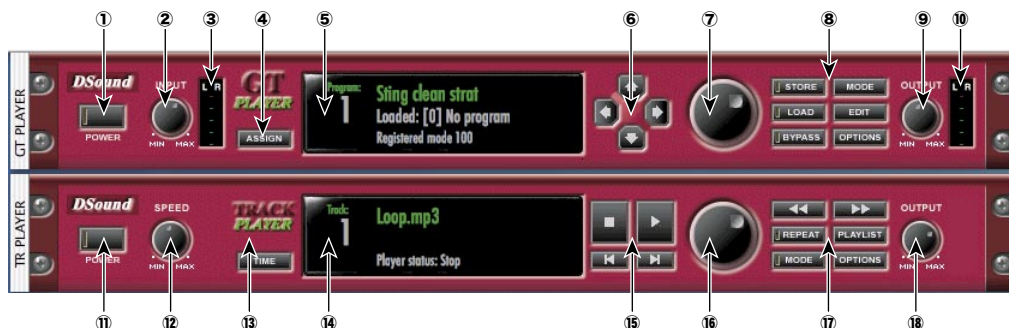
GT Player の起動

Windows : スタート→プログラム→ DSound GT Player → GT Player を実行。

Macintosh:アプリケーション・フォルダ (もしくはドラッグコピーしたフォルダ) → GT Player を実行。

パネルの名称と役割

GT Player は、リアルタイム・エフェクト・プレイヤーの「GT Player」(上段) と、オーディオ・プレイヤーの「Track Player」(下段) で構成されています。各プレイヤーのパネル上のコントローラ名称と機能は以下になっています。



- ① **Power Switch** : GT Player のプロセッシングをオン / オフします。
- ② **Input Level** : 入力レベルを調整します。
- ③ **Input Level Meter** : 入力レベルを表示します。
- ④ **Assign Button** :
現在選択しているエフェクト・パラメーターへ MIDI コントロール・チェンジをアサインします。
- ⑤ **Display** : GT Player の現在の状態が表示されます。
- ⑥ **Data Buttons** : プリセットやパラメーターの選択、パラメーターの変更に利用します。
- ⑦ **Data Wheel** : プリセットやパラメーターの選択、パラメーターの変更に利用します。
- ⑧ **Mode Buttons** : GT Player の詳細設定を行うモードを呼び出すボタン群です。
STORE : 現在のエフェクト・セッティングを保存します。
LOAD : 選択したプログラムをロードします。
BYPASS : すべてのエフェクトをオフします。
MODE : プログラム・モードとエディット・モードを切り換えます。
EDIT : エフェクト・エディターを起動します。
OPTIONS : GT Player のプレファレンス・ウィンドウを開きます。
- ⑨ **Output Level** : 出力レベルを調整します。
- ⑩ **Output Level Meter** : 出力レベルを表示します。

- ⑪ **Power Switch** : Track Player の処理をオン / オフします。
- ⑫ **Speed** : 原曲の音程を保ったままオーディオの再生速度が調整できます。
- ⑬ **Time Button** :
ディスプレイに表示させる時間を切り換えます。
通常の経過時間表示「elapsed」あるいは残量時間表示「remaining」が選択できます。
- ⑭ **Display** : Track Player の現在の状態が表示されます。
- ⑮ **Transport Buttons** : Track Player を操作するボタン群です。
■ : プレイヤーをストップします。
▶ : プレイヤーをスタートします。
▶| : 次の曲を呼び出します。
|◀ : 前の曲を呼び出します。
- ⑯ **Data Wheel** : プレイリストに登録された曲を素早く呼び出します。
- ⑰ **Mode Buttons** : Track Player の詳細設定を行うモードを呼び出すボタン群です。
◀◀ : ボタンを押している間だけ曲を巻き戻します。
▶▶ : ボタンを押している間だけ曲を早送りします。
REPEAT : MODE で選択された曲を繰り返し再生します。
MODE : 1 曲ごとに停止するか、プレイリストに登録された全曲を連続再生します。
PLAY LIST : Track Player で再生する曲を登録します。
OPTION : Track Player のプレファレンス・ウィンドウを開きます。
- ⑱ **Output Level** : Track Player の出力レベルを調整します。

レベル調整

GT Player の Power Switch をクリックし、ボタン内の LED を点灯させます。GT Player は起動時に最適なオーディオ・デバイスを選択し、次回起動時にはその設定を利用するため、正常に動作していれば、この時点からサウンドが出力されます。

もしもお使いのデバイスにレベル調整機能が装備されているなら、Input Level Meter を確認しながら入力レベルを調整します。レベル調整機能の無いデバイスをご利用の場合には、GT Player の Input Level ノブをマウスでドラッグしレベルを調整します。しかし、このレベル調整はプログラムごとに管理されているため、プログラムを変えるごとにレベル調整を行う必要が生じます。

モニターアンプ等の出力機器のレベルを適切に調整します。レベル調整機能の無い出力機器をご利用の場合、GT Player の Output Level でも調整できますが、このレベル調整はプログラムごとに管理されているため、プログラムを変えるごとにレベル調整を行う必要が生じます。

Data Buttons の上下をクリックするか、Data Wheel をドラッグして任意のプログラムを選択し、Load ボタンをクリックして、セッティングをロードします。

もしも、この段階で正常に音が出ない、あるいは時々音が途切れる場合には、オーディオデバイスの設定が不適切か、性能限界である可能性があります。後述の手順に従って「Buffer Size [Samples]」を増加させてください。

サウンドは正常に鳴っているが、弾いた瞬間から実際に音が出るまでにタイムラグを感じた場合には、後述の手順に従って「Buffer Size [Samples]」を減少させてください。

※ ご利用のデバイスが独自の設定パネルを利用しているならば、ご利用の機器のマニュアルを参照してレイテンシーの調節を行ってください。

オーディオ設定とレイテンシーの調節

GT Player は起動時に最適なオーディオ・デバイスを選択し、次回起動時にはその設定を利用しますが、もしも意図しないデバイスが選択されていたり、レイテンシー調節をマニュアルで行う場合には、以下の手順に従ってください。

GT Player の「OPTION」ボタンをクリックし、表示されるポップアップ・メニューから「Preferences」を実行し、プレファレンス・ウィンドウから、「Audio」タブをクリックします。

Windows :

「Device」セクターで任意のドライバーを選択します。選択したドライバーによって下に続くオプションの表示が変わります。

選択したドライバーによっては「Control Panel」ボタンをクリックすることでデバイスの設定を変更できるものがあります。

選択したドライバーによっては、「Sample rate」、「Input」、「Output」を指定できるものがあります。

ウィンドウの中央付近には、現在のオーディオ性能が数値表示されています。特に「Latency」値は小さいほど良く、25msec を超えるとリアルタイムの演奏が困難になります。25msec 以下の設定を施せない場合には、より高速なオーディオ・インターフェイスの導入を検討ください。

Windows 標準のドライバーを利用しているサウンドカードやオーディオインターフェイスでは、以下の手順で、レイテンシーの調節をします。独自の設定機能を持つデバイスをご利用の場合には、ご利用の機器のマニュアルを参照ください。

「Device」フィールドで「ASIO Multimedia Driver」を選択し、「Control Panel」をクリックします。



右の画面が表示されたら「詳細設定」をクリックし、以下の画面を表示させます。



利用するデバイスの左ボックスをクリックしチェックマークをつけます。そして「Buffer Size [Samples]」の数値フィールドをダブルクリックし、任意の数値（最小値 512）を入力します。小さい数値ほどレイテンシーは小さくなりますが、インターフェイスの性能によっては音が途切れるなどの弊害が生じます。

このコントロールパネルを利用するデバイスは、ドライバーの性能上レイテンシーを 20msec 以下に設定することが不可能です。ASIO ドライバー対応の高速なオーディオインターフェイス導入をご検討ください。

「OK」をクリックし、オーディオ設定画面へ戻り、レイテンシー値を確認してください。

すべてのオーディオ設定が完了したら「OK」をクリックします。GT Player 復帰直後は、プロセスが中断されていますので、GT Player の Power Switch をクリックし、ボタン内の LED を点灯させます。楽器をプレイして変更した設定が適切か否か確認してください。

Macintosh :

GT Player の「OPTION」ボタンをクリックし、表示されるポップアップ・メニューから「Preferences」を実行し、プレファレンス・ウィンドウから、「Audio」タブをクリックします。

「Device」セクターで任意のドライバーを選択します。選択したドライバーによって下に続くオプションの表示が変わります。

選択したドライバーによっては「Format」および「Channel pair」ボタンをクリックすることでデバイスの設定を変更できるものがありますが、基本設定のままで問題ありません。

「Buffer Size [in Samples]」フィールドから任意の数値を選択します。小さい数値ほどレイテンシーは小さくなりますが、インターフェイスの性能によっては音が途切れるなどの弊害が生じます。推奨は 128 以下です。

「Buffer Size [in Samples]」を 128 以下に設定することのできないオーディオ環境の方は、M-Audio Mobile Pro のような高速なオーディオインターフェイスの導入を検討ください。

設定が完了したらウィンドウ左上のクローズボタンをクリックします。

GT Player 復帰直後は、プロセスが中断されていますので、GT Player の Power Switch をクリックし、ボタン内の LED を点灯させます。楽器をプレイして変更した設定が適切か否か確認してください。



プログラム・チェンジ

GT Player では、128 個のプログラムを利用することができます。任意のプログラムは Data Buttons の上下、あるいは Data Wheel によってディスプレイに表示させた後、Load ボタンをクリックするとサウンドが切り替わります。

GT Player では、MIDI 機器によるプログラムチェンジにも対応しています。詳細は後述の記載を参照してください。なお、低スペックの PC ではプログラムチェンジ時にタイムラグが発生しますが、このタイムラグは GT Player で調整することはできません。タイムラグの無いプログラムチェンジを実現するには、より高速な PC が必要になります。

サウンドのエディット

サウンドのエディットには 2 つの方法があります。

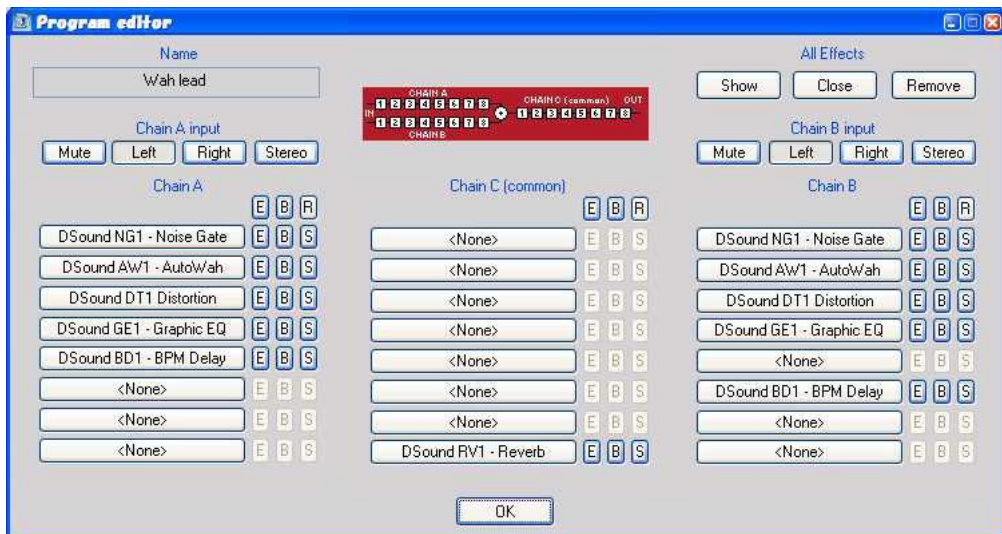
エディットモードからのエディット

パネルの Mode ボタンをクリックすると、GT Player がエディットモードになります。エディットモードでは、現在のプログラムで利用しているエフェクトモジュールの各パラメーターを調整することができます。Data Buttons の左右でパラメーターを呼び出し、Data Buttons の上下および Data Wheel で設定を変えることができますが、もっと簡単な方法があります。

エディットモードから Edit ボタンをクリックすると、現在のプログラムに登録されているエフェクトモジュールがすべて表示されます。任意のモジュールをクリックし、調整したいパラメーターのノブやスイッチをマウスで操作することで、設定が変更できます。もう一度 Edit ボタンをクリックすることで、すべてのウィンドウを閉じることができます。

プレイモードからのエディット

プレイモードから Edit ボタンをクリックすると、プログラムエディターが起動します。プログラムエディターはプログラム内に好みのエフェクトモジュールを配置し、個々のモジュールを呼び出して調整したり、プログラム全体のルーティングを変更することもできます。



パネル中央上部の図からも分かるように、チェーン A とチェーン B は並列のブロックになり、チェーン C が両ブロックが通過するブロックとなります。(図は Windows バージョン)

チェーン A とチェーン B の上部にある 4 つのボタンは、入力チャンネルの選択ボタンです。「Mute」は入力シグナルを遮断し（無音になる）、「Left」「Right」は指定チャンネルがモノラルで入力され、「Stereo」はステレオシグナルが入力されます。

「None」あるいはエフェクトモジュールの名称が表示されているボタンをクリックすると、VST プラグインのリストが表示され、任意のプラグインを選択するとそのモジュールが配置され利用可能になります。

モジュールボタン横の 3 つのボタンは「E」はエディットを示し、選択したモジュールのエディットパネルが表示されます。「B」はバイパスを示し、そのエフェクトを無効にします。「S」はソロを示しそのエフェクトだけを有効にし他のすべてを無効にします。最上段はブロック全体のエディット、バイパス、ソロ・ボタンです。

最上段右の 3 つのボタンはグローバル・ボタンです。「Show」ボタンは配置されたすべてのモジュールのエディットパネルを表示させ、「Close」はすべてを閉じます。「Remove」は配置したすべてのモジュールを配置解除します。

左上の「Name」フィールドには任意のプログラム名を入力できますが、現バージョンでは日本語の入力には対応しておらず、半角英数のみが使えます。

Macintosh バージョンでは上記機能の他にチェーン A とチェーン B のレベル設定を行うレベルスライダー機能が装備されています。

すべての設定が完了したら「OK」をクリックしてプログラムモードに復帰します。

プログラムの保存

サウンドを修正したプログラムは 2 つの方法（GT Player への保存とファイルへの書き出し）で保存できますが、デモバージョンでは保存機能を利用することはできません。

市販されている VST プラグインの利用

GT Player では VST プラグイン（バージョン 2 以降）が利用できますが、機能制限が施されており、以下のプラグインだけが利用できます。

IK Multimedia “Amplitube” <http://www.miroc.co.jp/amplitube/mainindex.html>

Steinberg “Warp” <http://www.japan.steinberg.net/products/warpvst.html>

C-plugs “C-Tuner” <http://ourworld.compuserve.com/homepages/NickWhitehurst/>

なお、上位バージョンの RT Player では、この機能制限が解除されていますので VST プラグイン（バージョン 2 以降）のプラグインエフェクトの多くが利用可能になります。

上記のプラグインを利用するには、それらが収納されているフォルダを指定する必要があります。「Options」→「Preferences」から「Folders」タブをクリックし、「Effect Folder」フィールドでプラグインエフェクトの収納されているフォルダを指定します。「Other」エリアの「Scan for plugins on the next program start」の左ボックスにチェックを入れ、GT Player を再起動すると、次回起動時から市販の VST プラグインも利用できるようになります。

上記プラグイン以外が指定フォルダに収納されている場合、エフェクトリストには表示されますが、配置しようすると「Can't load the "xxxxx" VST effect!」のアラートが表示されます。

MIDI によるコントロール

GT Player は MIDI に対応しており、MIDI インターフェイスを経由した MIDI 機器からの制御でプログラムチェンジやコントロールチェンジができます。この機能を使うことで PC と GT Player の組み合わせでライブを行うことも可能になりました。

「Options」→「Preferences」から「MIDI」タブをクリックし、「Input」フィールドで利用する MIDI デバイスを選択してください。他のオプションは初期設定のままで問題ありません。

コントロールチェンジをエフェクトパラメーターにアサインするには、アサインするプログラムをロードし、「Options」→「MIDI Mapping」を実行し表示されるパネルから、アサインしたいパラメーターを選択、「cc」フィールドでコントロールチェンジナンバーを指定するか、「Learn」ボタンをクリックしてから MIDI コントローラーを動かします。「OK」をクリックしてプレイモードに戻り、アサインが適切か否か確認してください。



あとがき

デモバージョンをお試しいただくための解説は以上となります。より詳細の解説は製品に付属するマニュアルを参照ください。それでは、GT Player を存分にお楽しみください。

お問い合わせ

DSound : <http://www.dsound1.com>

FERNANDES : <http://www.fernandes.co.jp>

mail : support@fernandes.co.jp

オンライン販売 : <http://www.vector.co.jp/>